

■集計

以下の協働事業自己チェックリストの集計は事務局担当者が行います。

(1) 事務局担当者は、集計結果をチェックリスト記入者全員に配布してください。

(2) 集計シートの小項目で「はい」が多い・少ないのは、共通認識ができているか、あまり共通認識となっていないかの度合いを表します。

認識できている小項目と認識されにくい小項目を確認します。

認識されにくい部分については、各責任者【*】から全員に説明を行った上で、認識のすり合わせができるように話し合ってください。

【*責任者】大項目Ⅰに関しては組織のリーダー、Ⅱはプロジェクトリーダー、Ⅲは事務局主担当
役割を兼任している場合は、あえて分けて説明していただくことはありません。

協働事業自己チェックリスト 集計シート（中間）

記入者数N=2

項目	小項目	はい	いいえ	?	合計
Ⅰ. 協働の前提	1. 地域の将来像と事業とのマッチング	2			10
	2. 協働のカタチ	2			
	3-①役割と責任	2			
	3-②コミュニケーションと合意形成	2			
	3-③意思決定と指示系統	2			
Ⅱ. 事業	1. 事業の目的	2			8
	2. 事業の成果	1		1	
	3. 成果の帰属	1		1	
	4. 事業の完了時期	2			
	5. 事業後の展望	2			
Ⅲ. 事業実施体制	1. 業務分担	2			9
	2. 費用分担	2			
	3. 情報共有	2			
	4. 問題発生時の体制	2			
	5. スケジュール管理と進捗確認	1		1	

NPOと行政の 協働事業自己チェックリスト

[中間期]

試作品

このチェックリストは、
「市民と行政」が行う「協働事業」を
「事業に中心的に関わっている人」が、
事業の企画から実施段階の途中の「中間期」に
「セルフチェック」を行うためのシートです。

所属組織名称： 地域振興部東紀州活性化・地域特定P

記入者氏名： 森 政之

記入年月日： 平成17年3月10日

協働事業の名称： 熊野古道協働プロジェクト

■はじめに

以下のチェックリストの設問を読み、現在、行われていると思うものには はい、
 行われていないと思うものには いいえ、わからないものには ? を選び、回答を
 ○で囲み（データに直接入力の場合は、 内を灰色で塗りつぶす）、チェックしてください。

I. 協働の前提

1. 地域の将来像と事業とのマッチング

<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> ?
--	------------------------------	----------------------------

事業を始める時に両者で話し合った、事業終了後の地域や社会に与える影響 [課題解決・社会変革] の予測や可能性は、事業途中になっても変更はありませんか？

[ビジョン] モデル的実践活動による魅力的なまちづくりのためのノウハウ伝授及び人材育成。スケジュール的にはイメージしていたものより遅れ気味だが概ね計画通り。

2. 協働の形態

<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> ?
--	------------------------------	----------------------------

この事業にとって最適と思われる協働の形態 [委託・補助・助成・共催・協力・実行委員会・その他] を両者で話し合って選択することができましたか？

[現在の協働の形態] 委託

3. 対等な関係

お互いに依存することなく、事業実施に主体的かつ積極的に取り組む姿勢でのぞみ、お互いの考え方や立場の違いを理解し、多様な価値観を認め合いながら、対等と思える関係を話し合いによって築くことが、事業をより効果的に実施していくために重要です。

① 役割と責任

<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> ?
--	------------------------------	----------------------------

この事業を効果的に実施する上で必要となる資源(人・物・予算・情報)を話し合い、それぞれが適切な役割とそれに見合う負担をするなど、適した役割を担い、共に事業を実施している認識を持って責任を果たしていますか？

② コミュニケーションと合意形成

<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> ?
--	------------------------------	----------------------------

お互いに事業に関わる情報を提供し合い、事業の方向性の確認や事業内容の変更について意見を交換するなど、必要と思えることをいつでも話し合える手段を持ち、また、機会や場をつくるなどして合意形成に努めていますか？

③ 意思決定と指示系統

<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> ?
--	------------------------------	----------------------------

お互いに相手の意思を尊重した合意形成に基づく意思決定の方法を検討し、速やかに意思決定を行える体制があり、指示が問題なく伝達されていますか？

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

II. 事業

1. 事業の目的

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った事業の目的は、現在、事業全体の指針として全員に意識され、目的に沿った事業内容となっていますか？

[事業の目的]

熊野古道の来訪者を街中へ招き入れるための魅力的なまちづくりのモデル的实践活動及び人材育成。

2. 事業の成果

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った成果目標は、現在、事業全体のゴールとして全員に意識され、事業終了時に達成が期待できますか？

モデル事業としては目標達成。このモデル事業きっかけとして、地域資源の掘り起こし、ニーズの把握、実現へのサポートをいかに充実させ、地元で広げ、定着させられるかが今後の課題。

3. 成果の帰属

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了時における具体的な成果（物）とその帰属について、両者で話し合い、合意が取れていますか？

[具体的成果（物）] カフェ・クリーム・ノウハウ

[帰属] 今回の事業の趣旨を引き継いで、自立的に運営してくれる人に引き継いでもらう。

(間接的な関与)

4. 事業の完了時期

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合い設定した事業期間が、期待された成果目標を達成するために適切であったかどうかを話し合い、事業完了時期の合意が取れていますか？

5. 事業後の展望

はい	いいえ	?
----	-----	---

協働事業終了後に、この事業が今後どのような形で続いていくことが望ましいか、事業が地域や社会に与える影響〔課題解決・社会変革〕について考慮し、社会的な責任を果たしていく体制などを両者で検討していますか？

[事業後の展望・方向性]

費用をかけずに古い空き店舗を改装する手法、イベントや情報発信の手法、仲間づくりの手法を参考に、今後、地域に広め定着させていくことが課題。(あきらめ感→希望。非日常空間)

上記「はい」と答えた合計	4
--------------	---

Ⅲ. 事業実施体制

1. 業務分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう業務分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に負荷がかかる場合については、両者で話し合いの上、変更するなどの対応を図っていますか？

2. 費用分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう費用分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に費用がかかる場合については、両者で話し合いの上、費用分担の変更や外部からの資金調達などの対応を図っていますか？

3. 情報共有

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を円滑に実施するために、事業に関する情報を入手後、スピーディーかつ積極的に協働のパートナーに提供し、情報共有に努めていますか？

4. 問題発生時の体制

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して問題が発生した場合は、速やかに両者で問題について情報共有し、解決に向けた話し合いを行ったり、解決できない場合は第三者を交えて協議するなどの体制はありますか？

5. スケジュール管理と進捗確認

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を準備・実施するにあたり、関係者間で業務遂行の時期が明確になっており、進捗状況を互いに連絡し合い、効果的な進め方ができているかを確認する体制があり、対処できていますか？

上記「はい」と答えた合計	4
--------------	---

NPOと行政の 協働事業自己チェックリスト

[中間期]

試作品

このチェックリストは、
「市民と行政」が行う「協働事業」を
「事業に中心的に関わっている人」が、
事業の企画から実施段階の途中の「中間期」に
「セルフチェック」を行うためのシートです。

所属組織名称： 特定非営利活動法人 ミーツ

記入者氏名： 理事 小石原剛

記入年月日 2005年3月11日

協働事業の名称：平成16年度熊野古道協働プロジェクト
(まちづくり)

■はじめに

以下のチェックリストの設問を読み、現在、行われていると思うものには はい、
行われていないと思うものには いいえ、わからないものには ? を選び、回答を
○で囲み（データに直接入力の場合は、 内を灰色で塗りつぶす）、チェックしてください。

I. 協働の前提

1. 地域の将来像と事業とのマッチング

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った、事業終了後の地域や社会に与える影響 [課題解決・社会変革] の予測や可能性は、事業途中になっても変更はありませんか？

[ビジョン]

熊野古道を活かしたまちづくりを進めるため、必要なノウハウのストックと人材育成を進める。

2. 協働の形態

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業にとって最適と思われる協働の形態 [委託・補助・助成・共催・協力・実行委員会・その他] を両者で話し合っ選択することができましたか？

[現在の協働の形態] 委託事業

3. 対等な関係

お互いに依存することなく、事業実施に主体的かつ積極的に取り組む姿勢でのぞみ、お互いの考え方や立場の違いを理解し、多様な価値観を認め合いながら、対等と思える関係を話し合いによって築くことが、事業をより効果的に実施していくために重要です。

① 役割と責任

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を効果的に実施する上で必要となる資源(人・物・予算・情報)を話し合い、それぞれが適切な役割とそれに見合う負担をするなど、適した役割を担い、共に事業を実施している認識を持って責任を果たしていますか？

② コミュニケーションと合意形成

はい	いいえ	?
----	-----	---

お互いに事業に関わる情報を提供し合い、事業の方向性の確認や事業内容の変更について意見を交換するなど、必要と思えることをいつでも話し合える手段を持ち、また、機会や場をつくるなどして合意形成に努めていますか？

③ 意思決定と指示系統

はい	いいえ	?
----	-----	---

お互いに相手の意思を尊重した合意形成に基づく意思決定の方法を検討し、速やかに意思決定を行える体制があり、指示が問題なく伝達されていますか？

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

II. 事業

1. 事業の目的

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った事業の目的は、現在、事業全体の指針として全員に意識され、目的に沿った事業内容となっていますか？

[事業の目的]

熊野古道を活かしたまちづくりの拠点づくりと運営ノウハウの習得。
魅力的なまち暮らしのためのコンテンツを見出す。

2. 事業の成果

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った成果目標は、現在、事業全体のゴールとして全員に意識され、事業終了時に達成が期待できますか？

[事業の成果目標]

ワークショップ形式による市民の自発を促すプロジェクトであり、事業の成果は具体化せずゴールフリーにすることが重要。参加者各自のゴールが設定できてこそ意味のある事業になる。

3. 成果の帰属

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了時における具体的な成果（物）とその帰属について、両者で話し合い、合意が取れていますか？

[具体的成果（物）] 地域でのまちづくりに必要な人材

[帰属] 市民

4. 事業の完了時期

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合い設定した事業期間が、期待された成果目標を達成するために適切であったかどうかを話し合い、事業完了時期の合意が取れていますか？

5. 事業後の展望

はい	いいえ	?
----	-----	---

協働事業終了後に、この事業が今後どのような形で続いていくことが望ましいか、事業が地域や社会に与える影響 [課題解決・社会変革] について考慮し、社会的な責任を果たしていく体制などを両者で検討していますか？

[事業後の展望・方向性]

まちづくりへの市民の自発的な参加。ノウハウを持った人材の育成。新たなコミュニティの形成。

上記「はい」と答えた合計	4
--------------	---

Ⅲ. 事業実施体制

1. 業務分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう業務分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に負荷がかかる場合については、両者で話し合いの上、変更するなどの対応を図っていますか？

2. 費用分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう費用分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に費用がかかる場合については、両者で話し合いの上、費用分担の変更や外部からの資金調達などの対応を図っていますか？

3. 情報共有

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を円滑に実施するために、事業に関する情報を入手後、スピーディーかつ積極的に協働のパートナーに提供し、情報共有に努めていますか？

4. 問題発生時の体制

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して問題が発生した場合は、速やかに両者で問題について情報共有し、解決に向けた話し合いを行ったり、解決できない場合は第三者を交えて協議するなどの体制はありますか？

5. スケジュール管理と進捗確認

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を準備・実施するにあたり、関係者間で業務遂行の時期が明確になっており、進捗状況を互いに連絡し合い、効果的な進め方ができているかを確認する体制があり、対処できていますか？

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

NPOと行政の 協働事業自己チェックリスト

[完了期]

試作品

このチェックリストは、
「市民と行政」が行う「協働事業」を
「事業に中心的に関わっていた人」が、
事業終了後、報告書作成段階の「完了期」に
「セルフチェック」を行うためのシートです。

所属組織名称： 特定非営利活動法人 ミーツ

記入者氏名： 理事 小石原剛

記入年月日 2005年3月11日

協働事業の名称：平成16年度熊野古道協働プロジェクト
(まちづくり)

■はじめに

以下のチェックリストの設問を読み、現在、行われていると思うものには はい、
 行われていないと思うものには いいえ、わからないものには ? を選び、回答を
 ○で囲み（データに直接入力の場合は、 内を灰色で塗りつぶす）、チェックしてください。

I. 事業の結果

1. 問題発生時の体制

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して問題が発生した場合に、速やかに両者でその問題について情報を共有し、話し合いを行ったり、解決できない場合は第三者に相談するなど、解決を図る体制をつくりましたか？

2. クレームの吸い上げとフィードバック

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して受益者やドナーから苦情や意見が寄せられた場合に、速やかに両者でその情報を共有し、適切に対応すべく、改善に向けた話し合いを行い、活かすことができましたか？

3. 事業実施後の振り返り

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、当初の企画や実施内容、その結果についてお互いに話し合う機会を持ち、結果の把握と共有に努めるとともに、それぞれの提供した資源（人・物・予算・情報）、役割、負担などに見合う、事業規模、取り組み、結果であったか意見交換を行いましたか？

[結果] 現在継続中の事業であり、終了後、こうしたミーティングを持つ予定にしている。

4. 成果の達成

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に設定した成果目標は、達成できましたか？

（*成果目標を、両者の間で話し合い、互いに達成を確認していることが前提となります）

[成果] コミュニティカフェの運営を通じて市民参加の手法でワークショップを重ね、必要なコンテンツ「カフェ運営ノウハウ」「まち暮らし体験メニュー」「地域からの情報配信」「まちづくりコミュニティのスペース」を導き出した。プロセスをとおして市民へのノウハウのストックに重点を置いた結果、地域での人材育成に成果を上げることができた。

5. 事業の将来展望

はい	いいえ	?
----	-----	---

今回行った事業が、今後どのような形で続いていくことが望ましいか、残っている課題や改善策について話し合い、政策提言としてまとめるなど、行政関与の観点も含めて、社会的な責任を果たしていく体制などを両者で検討しましたか？

[課題解決のための改善提案]

今後の課題として、地域で立ち上がったスペースやコミュニティをバックアップしていく、中間支援センターおよびコーディネーターの育成の必要性が上げられる。この点について次年度以降で具体的に拠点を設け、切れ目無く、地域のコミュニティをサポートして行くことが重要。

上記「はい」 と答えた合計	5
------------------	---

II. 事業の成果

1. 事業後の受益者とのコミュニケーションと満足度

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、受益者から意見を聴く機会を持ち、この事業を通じて十分な満足を得られたかを確認し、今後の事業につながる良好な関係づくりを行っていますか？

[受益者の満足の声]

終了時にヒアリングを実施する予定。

中間期の声として、「住民の自発でここまでできるとは思っていなかった。」「自分達に参加できる場所があることがわかった。」

2. 事業後の資源提供者とのコミュニケーションと満足度

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、報告書や決算書などを作成し、納税者を含む資源提供者への積極的な情報の提供や公開を行い、また、意見を聴く機会を持ち、事業の結果に十分な満足を得られたかを確認し、今後の事業につながる良好な関係づくりを行っていますか？

[資源提供者の満足の声]

終了時に作成の予定。

直接の資源提供者からは自発的、能動的な支援を受けている。納税者に対してはホームページを通じて情報提供を行った。

3. 人々の自立性の向上

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を通じて、地域の人々が、地域や社会の課題を理解し、自立した市民として、解決のために自発的に行動できるようになりましたか？

まちづくりを自らの問題として向き合う雰囲気が生まれた。

4. 新たなネットワーク

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を通じて、市民や関係する団体、行政の新しいつながりが生まれ、地域に新たなネットワークが出来てきましたか？

参加者同士がこの事業を通じて新たなコミュニティを立ち上げつつある。

5. 地域や社会に与えたインパクト

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を実施することにより、期待された影響〔課題解決・社会変革〕を、地域や社会にもたらすことができましたか？

[事業が地域や社会に与えた影響]

まちづくりに積極的に関わるおもしろさ気づくことができた。空き店舗が目立つ商店街での拠点づくりが商店主達に期待と希望を与えた。コミュニティースペースの持つダイナミズムを体験することができた。

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

Ⅲ. 実施の結果

1. 協働意識の醸成

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、事業関係者（行政・市民）の間で、協働への理解が深まり、効果を実感する人が増え、今後、積極的に協働という手法を事業に取り入れ、実施しようという機運が生まれてきましたか？

2. 協働の満足度

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、事業に関わった人々（行政・市民）は、単独で事業を行った場合よりも、協働で進めたことでより大きな効果を得たと実感し、十分な満足を得ることができましたか？

求める満足のベクトルが違うため、それぞれからのヒアリングを実施しないとわからない。

3. 協働のコストの分担

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、行政側、市民側、あるいは一部の関係者に、費用、労力・時間等、ある面での負担感が生じたとき、その負担に対する配慮ができていましたか？

[生じた負担感]

当該地域での初の実践的な事例づくりだったので、あえて参加者に負荷をかけるスタイルをとった。このことから来るストレスは相当のものがあつたと認識している。だからこそ、参加者各自の設定した目標をクリアすることができた。

4. 今後の協働の改善

はい	いいえ	？
----	-----	---

この事業を通じて得た、協働事業を行う際の関係づくり、資源（人・物・予算・情報）調達、役割分担、連携等の課題を抽出し、両者で改善を考え、互いに今後の協働事業に活用していきますか？

[改善ポイント]

まちの中に拠点を置き、参加者と直接コミュニケーションをとりながら進める場合、市民のスキルを活用して行くことは比較的容易であるが、逆に行政側の部署・人材のスキルが見えにくくなる。あらかじめ担当部署ごと、担当者ごとのスキルバンクなどがあると、さらなる協働のダイナミズムが可能。

5. 結果の公開と説明責任

はい	いいえ	？
----	-----	---

この事業の結果や成果を自己評価や当事者以外の評価によって明らかにし、今後、同じような協働事業の企画・実施にあたっての改善のヒントにするために、地域や社会に対して積極的に情報を公開していきますか？

上記「はい」と答えた合計	3
--------------	---